

〔第1問〕 次の設問に答えなさい。解答にあたっては、各設問とも指定した字数以内で記入すること。 (20点)

- 問1 活動性分析の意義を説明しなさい。(200字以内)
- 問2 支払勘定回転率について説明しなさい。(250字以内)

〔第2問〕 次の文の の中に入る適当な用語を下記の＜用語群＞の中から選び、その記号（ア～ヘ）を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。 (10点)

一般の商工業の場合には、商品等の 1 の代金回収が一般的慣習となっているが、建設業では、建設工事が大型化するに伴い、 2 に資材購入資金等を要することから、請負代金の 3 を前受けすることが慣習となっている。未成工事に係る工事請負代金の前受額は 4 勘定に掲記され、この額と 5 勘定との比率が特に重視される。この比率が 6 以上であれば工事に係る 7 が軽く済み、支払能力も高まることになる。なおこの両勘定はともに 8 であることから、 9 の計算に際して考慮される。しかし、建設業においては、この両勘定の金額が大きくかつ特殊な性格をもつため、 9 を求めることに際して、この計算式の分母及び分子のいずれから 10 比率を求めることが多い。

＜用語群＞

ア 未成工事受入金	イ 前受収益	ウ 加算して	エ 工事完了まで	オ 流動項目
カ 固定項目	キ 流動比率	ク 固定比率	コ 当座比率	サ 引き渡し後
シ 一 部	ス 差し引いて	セ 支払手形	ソ 受取手形	タ 工事完了後
チ 未成工事支出金	ト 資金負担	ナ 生産性	ニ 正味運転資本	ヌ 引き渡し前
ノ 全 部	ハ 前払い	ヒ 代金支払い	フ 90%	ヘ 100%

〔第3問〕 次の＜資料＞に基づいて、(A)～(E)の金額を算定し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。この会社の会計期間は1年である。なお、解答に際しての端数処理については、解答用紙の指定のとおりとする。 (20点)

＜資料＞

1. 貸借対照表

貸 借 対 照 表

(単位：百万円)

(資産の部)		(負債の部)	
現金及び預金	5,800	支払手形	14,670
受取手形	(A)	工事未払金	×××
完成工事未収入金	83,340	短期借入金	(B)
未成工事支出金	×××	未払法人税等	850
流動資産合計	×××	未成工事受入金	65,200
建物	13,400	流動負債合計	141,200
機械装置	17,770	長期借入金	×××
車両運搬具	5,200	固定負債合計	×××
土地	13,780	負債合計	×××
建設仮勘定	(C)	(純資産の部)	
固定資産合計	×××	資本金	48,000
		資本剰余金	12,000
		利益剰余金	22,000
		純資産合計	82,000
		負債純資産合計	×××
資産合計	×××		